

学年	ページ	開講科目
1年	22	歯牙解剖学
3年	97	救急法・救急蘇生法
3年	103	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-06				
	●									
科目名	歯牙解剖学				単位認定者	小野寺 健 佐々木 聡		小テスト	20 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (歯牙鑑別)	30 %
							授業時間数		20 時間	授業内課題 (デッサン)
				授業形態	講義	授業回数			10 回	
授業の概要	ヒトの歯の形態、歯の発生、歯の組織を理解し、歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。また、歯周組織との関連を理解する。スケッチ描画等を通して乳歯、永久歯の各歯牙の形態、機能の特徴を明確に把握する。									
到達目標	歯科医療に従事する者として、その最も基礎的な知識であるヒトの歯の表示法や記号、歯種鑑別、歯列と咬合との関連性、歯種別の歯の形態そして歯の形態異常を学ぶ。またスケッチ描画を通して歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。									
学修者への期待等	覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、質問事項を用意して授業に挑む。授業後は復習を行うこと。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	歯の概論①(歯の機能、歯の種類と名称、歯式)				予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の機能、歯の形態、歯の種類と数、歯の表示法についてあらかじめ読んでおくこと。(概ね30分)			小野寺 健		
2	歯の概論②(歯の形態、歯の各部名称、根管の形態)				予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の形態、歯の各部名称、根管の形態についてあらかじめ読んでおくこと。(概ね30分)			小野寺 健		
3	永久歯の形態的特徴(中切歯、側切歯、犬歯)				予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの中切歯、側切歯、犬歯についてあらかじめ読んでおくこと。(概ね30分)			小野寺 健		
4	永久歯の形態的特徴(小臼歯、大臼歯)				予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの小臼歯、大臼歯についてあらかじめ読んでおくこと。(概ね40分)			小野寺 健		
5	乳歯の形態的特徴、特色のある歯の形態				予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの乳歯の形態的特徴、特色のある歯の形態についてあらかじめ読んでおくこと。(概ね40分)			小野寺 健		
6	(歯牙デッサン演習)右側上顎中切歯のデッサン				【事前】事前に上顎中切歯の形態的学的特徴を把握してくること。			佐々木 聡		
7	(歯牙デッサン演習)右側上顎犬歯のデッサン				【事前】事前に上顎犬歯の形態的学的特徴を把握してくること。			佐々木 聡		
8	(歯牙デッサン演習)右側上顎第一小臼歯のデッサン				【事前】事前に上顎第一小臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。			佐々木 聡		
9	(歯牙デッサン演習)右側上顎第一大臼歯のデッサン				【事前】事前に上顎第一大臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。			佐々木 聡		
10	(歯牙デッサン演習)右側下顎第一大臼歯のデッサン				【事前】事前に下顎第一大臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。			佐々木 聡		
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、プリントを配布する。									
備考	1～5回は1クラス(グループワーク)で、6～10回は2クラスに分かれて授業を行う。小テストは小野寺担当は筆記形式と実技(歯牙鑑別)の試験を行う。 授業内課題は歯牙デッサン演習で毎回歯牙スケッチを提出し、それを評価とする。デッサンは評価後に返却してフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-18		
	●	●	●	●	●			
科目名	救急法・救急蘇生法				単位認定者	下田 元 菅原 一昭		試験（筆記） 35 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	試験（実技） 65 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
						授業回数	15 回	
授業の概要	救急処置と蘇生法の基礎を学び、歯科医療スタッフの一員として現場で応用できるようになることを目的とする。							
到達目標	歯科の臨床現場で、緊急時、正しい救急処置と心肺蘇生法を行うことができるようにする。							
学修者への期待等	教科書などで関連内容を熟読し復習してください。歯科口腔外科臨床で患者さんの安心、安全な全身管理を行うための重要な科目です。身近な人が突然倒れたときに、救急救命の知識があれば命を救うことができます。無知であれば、救急車が到着するまでなすすべがなく救うことができません。後で後悔しない為にも、救急救命法を学んで頂きたい。							
回	授業計画			準備学修			担当	
1	バイタルサインの評価、心肺蘇生法(BLS)の知識・手技の修得			教科書、講義資料などで関連内容を予習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元	
2	ガイドランス(評価方法、受講するにあたっての心構え) 応急手当の重要性。(目的・必要性・救命処置・心肺蘇生)			授業終了後、プリント回収。(チェックのため)			菅原一昭	
3	応急手当の重要性、救命の処置(心肺蘇生・AEDについて)			授業終了後、プリント回収。(チェックのため)			菅原一昭	
4	歯科口腔外科診療時の局所的・全身的偶発症、その症状、重症度評価、救急初期対処法、全身管理の修得			教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元	
5	特殊な傷病とその応急手当(歯の損傷・溺水・熱中症・感電 アキレス腱断裂・RICE処置)			授業終了後、プリント回収。(チェックのため)			菅原一昭	
6	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の病態評価、全身管理、発症時の緊急処置、救急対処法の修得			教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元	
7	局所麻酔法、全身麻酔法、精神鎮静法、および、周術期患者管理、周術期合併症と緊急処置、救急対処法の修得			教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元	
8	特殊な傷病とその応急手当(毒ヘビ・毒物・凍傷・意識障害 頭痛)			授業終了後、プリント回収。(チェックのため)			菅原一昭	
9	特殊な傷病とその応急手当(やけど・オスグット病・テニス肘 ジャンパーズニー・頸椎損傷、気道異物除去)			【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。			菅原一昭	
10	インシデント・アクシデント報告、医療事故と法的責任、患者の全身管理で歯科衛生士に期待される役割についての理解			教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元	
11	止血法、体位管理、救急医療			【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。			菅原一昭	
12	心肺蘇生法(成人)実技			【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。			菅原一昭	
13	心肺蘇生法の実技(成人・小児)実技			【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。			菅原一昭	
14	心肺蘇生法の実技(成人)実技、AED、止血法			【事前】実技効果確認に備えて、理解してくる(概ね1時間程度)。			菅原一昭	
15	実技効果確認、総括			【事前】実技効果確認に備えて、理解してくる(概ね1時間程度)。			菅原一昭	
教科書	『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 菅原担当分はテキストは特に指定せず、随時プリントをこちらで準備する。							
参考文献	特に指定しない							
備考	下田:講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。講義ごとにその講義内容に関する資料を配布します。知識の整理、復習、応用に繋げる習慣を身に付けてください。 菅原:◎実技時、服装は白衣。ナースシューズ。髪は後ろで結ぶ。必要に応じ授業内容に関連する資料を配布します。(菅原担当分はクラス別で授業を実施する)◎授業で理解できなかったこと等の質問に関しては本館2階職員室(菅原)で対応する。							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-RDH-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）				単位認定者	小野寺 健		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	歯科衛生の実践場面で遭遇する問題を自ら解決していくため、3年間で学んだ知識と技術を整理する。「歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）」で整理した、臨床歯科にかかわる基礎的な知識と技術を踏まえて、最新の臨床情報についても学習し、口腔衛生の専門職として活躍できる準備を整える。									
到達目標	3年間で学んだ知識と技術の総まとめを行い、歯科衛生士として必要な総合的能力を修得する。									
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	高齢者口腔保健学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(概ね1時間程度の事前学修)			猪狩 洋平		
2	高齢者口腔保健学2(各論のまとめ)							猪狩 洋平		
3	保存歯科学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(概ね1時間程度の事前学修)			八幡 祥生		
4	保存歯科学2(各論のまとめ)							八幡 祥生		
5	発達歯科学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(概ね1時間程度の事前学修)			丸谷由里子		
6	発達歯科学2(各論のまとめ)							丸谷由里子		
7	病理学(まとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(概ね1時間程度の事前学修)			小野寺 健		
8	歯内療法学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(概ね1時間程度の事前学修)			根本 英二		
9	歯内療法学2(各論のまとめ)							根本 英二		
10	歯科補綴学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(概ね1時間程度の事前学修)			依田 信裕		
11	歯科補綴学2(各論のまとめ)							依田 信裕		
12	歯科矯正学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(概ね1時間程度の事前学修)			大堀 文俊		
13	歯科矯正学2(各論のまとめ)							大堀 文俊		
14	歯周療法学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(概ね1時間程度の事前学修)			根本 英二		
15	歯周療法学2(各論のまとめ)							根本 英二		
教科書	『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策① 第5版 人体の構造と機能/歯・口腔の構造と機能/疾病の成り立ち及び回復過程の促進』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策② 第5版 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策③ 第5版 歯科衛生士概論/臨床歯科医学1(臨床歯科総論/歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療/歯の欠損と治療)』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策④ 第5版 臨床歯科医学2(顎・口腔領域の疾患と治療/不正咬合と治療/小児・高齢者・障害児者の理解と歯科治療)』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策⑤ 第5版 歯科予防処置論/歯科保健指導論/歯科診療補助論』歯科衛生士国家試験対策検討会 編									
参考文献	適宜プリントを配布する。									
備考	1～6、8～15回目は遠隔(オンデマンド)で授業を実施する、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										